

2019年1月1日～2020年12月31日の間に
岡山大学において献体をされた方のご遺族の方へ
「肋骨付き前鋸筋弁の減量挙上法に関する研究
—選択的逆行性穿通枝造影法の確立と胸背動脈皮膚穿通枝の評価—」
へご協力をお願い

研究機関名 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
研究機関長 研究科長 大塚愛二

研究責任者	岡山大学病院	形成外科	助教	松本 洋
研究分担者	岡山大学医歯薬学総合研究科	人体構成学	助教	品岡 玲
	岡山大学医歯薬学総合研究科	人体構成学	教授	大塚 愛二
	岡山大学医歯薬学総合研究科	形成再建外科	教授	木股敬裕

1. 研究の概要

1) 研究の背景および目的

形成外科では、がんの手術などで骨が切除された場合に、体の他の部位から血管をつけた状態で骨を取り出し、骨が無くなった部位に移植することがあります。このような手術の際の移植材料として、肋骨とそれに付着する筋肉を血管付きで移植する事があります。このような移植組織は組織内を血液が循環することで生着しますが、その移植組織内の血管の状態をご遺体で調べさせていただくのが本研究の目的です。また、これまで血管の走行を調べる一つの方法として、体の深いところにある比較的太い血管に造影剤を注入していましたが、この研究ではより浅い皮膚表面の血管から造影剤を注入し血管の走行を調べる方法の確立も目的としています。この研究を行うことで、血液の循環が安定した方法で移植組織を採取することが可能となり、結果としてより安全な手術法の開発につながります。

尚、この研究に参加されましても、通常の系統解剖が行われます。参加による不利益はございません。

2) 予想される医学上の貢献及び研究の意義

本研究により移植組織の適応範囲が拡大され、見た目や機能に優れた再建方法の確立を目指します。また、解剖体における新しい血管の造影法を確立することで、解剖体に侵襲の少ない血管の評価法の確立と新たな移植組織開発の可能性を拓けます。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

- ①2019年1月1日～2020年12月31日の間に岡山大学において献体された28名を研究対象とします。
- ②生前に自由意志による献体の同意を本人から文書で取得した御遺体。

2) 研究期間

倫理委員会承認後～2021年3月31日

3) 研究方法

2019年1月1日～2020年12月31日の間に、岡山大学において献体された方28名を研究者が造影X線CT撮影とその解析、肉眼解剖を行い、側胸部における血管の状態、分布を明らかにします。

4) 使用する試料

ご遺体の一部である側胸部の血管の走行を調べますが、ご遺体の氏名などの情報は削除し、匿名化して、情報などが漏洩しないよう プライバシーの保護には細心の注意を払います。

5) 使用する情報

この研究に使用する情報として、以下の情報を抽出し使用させていただきますが、ご遺体の氏名などの情報は削除し、匿名化して、個人情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

- ・年齢、性別、手術歴、既往歴など、生前にご本人より記載、ご提供いただいた紙媒体の情報
- ・造影 CT 検査や肉眼解剖により得られた研究対象の血管の状態と分布

6) 試料・情報の保存、二次利用

この研究に使用した試料・情報は、研究の中止または研究終了後5年間、岡山大学病院形成外科内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の試料・情報は施錠可能な保管庫に保存します。

7) 研究計画書および個人情報の開示

この研究における個人情報の開示は、故人が生前希望された場合に御遺族にのみ行います。内容についてお分かりになりにくい点がございましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究はご遺体のデータを氏名や生年月日などの個人を識別できる情報がわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、献体者の試料・情報が研究に使用されることについて御遺族がご了承いただけない場合には研究対象としないので、御遺族の方は2020年6月30日までに下記の連絡先までお申し出ください。この場合も献体者の方々に不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

岡山大学病院 形成外科

氏名：松本 洋

電話：086-235-7214（平日：8時30分～17時15分）

ファックス：086-235-7210